

平成 30 年度海邦養秀ネットワーク構築事業

報告書

カリフォルニア

の『家族』に会いに行こう！



海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会

(沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課)

はじめに

はいたい、ぐすーよー ちゅーうがなびら。

沖縄県民の海外移住は 1899 年のハワイ移民に始まり、20 世紀には多くのウチナーンチュが新天地を求めて海を渡りました。今日では世界各地に約 42 万人の県系人がいると推計され、多くの方々が各分野で活躍するとともに、沖縄と世界の架け橋として大きな役割を果たしております。

海邦養秀ネットワーク構築事業は、沖縄県内の 15 歳から 25 歳までの学生を海外の沖縄県人会へホームステイ派遣し、海外県系人の雄飛の精神や国際感覚を学んでもらうとともに、海外の同世代のウチナーンチュとの友情を育むことなどを通して、将来のウチナーネットワークを発展させていくことを目的としています。2007 年のスタートから 2017 年までに 7 か国 13 県人会へ 118 名の若者を派遣してきました。2018 年は、翌年に設立 110 周年を迎えるアメリカ合衆国カリフォルニア州北米沖縄県人会 (OAA) の元へ大学生 3 名、専門学校生 2 名、高校生 5 名、計 10 名の学生を派遣しました。

学生達は現地プログラムの「ウチナーグチクラス」や「若者交流会」に参加し、遠く離れたアメリカで、県人会という組織を中心としながら、沖縄の文化や歴史が継承されていることに驚いていました。そして、北米沖縄県人会が沖縄の心を持った人を「ウチナーンチュ アット ハート(心はウチナーンチュ)」と呼び、沖縄にルーツを持たない方を会員として歓迎していることにも大変感銘を受けていました。また、県人会館が寄付で出来たことや、ボランティア活動によって会館が運営されていることを知り、沖縄の「ゆいまーる精神」の素晴らしさを改めて実感したようです。

県人会員の皆様の活発な活動に感動した一方で、沖縄で生活する学生達が沖縄の歴史や文化についてほとんど知っていないことに気づかされ、現地ですべて悔しい思いをしたという報告もありました。彼らは帰国後、沖縄を発信するために様々な活動に取り組んでいます。今回の派遣報告会を自主的に実施したり、三線を習い始めたりすることで、沖縄を見つめ直しています。

ホストファミリーの皆様には、本当の家族のように温かく、深い愛情を持って接していただきました。ホストファミリーとの自由時間では、一緒に料理を作ったり、スポーツ観戦や博物館へ行ったりと、ホームステイプログラムだからこそ深まる絆があったようです。

学生達が研修を通して得た経験や、北米沖縄県人会の方々で育んだ強い絆は、世代を越えてウチナーネットワークを発展させていくための礎となることでしょう。学生達は、本研修後に沖縄を訪れているウチナーンチュ子弟の留学生や海外市町村研修生の若者と交流を図り、新たなネットワークの絆を深めています。10 月 30 日には SNS を活用し「世界のウチナーンチュの日」を発信する取り組みも積極的に行っており、将来のウチナーネットワークの担い手として活躍してくれるものと期待しています。

結びに、北米沖縄県人会神谷エドワード会長、OAA 海邦養秀ネットワーク構築事業受入実行委員会メンバー及びホストファミリーの皆様を始め、本研修に御協力いただいたカリフォルニア及び沖縄の関係者の皆様には、前途有望な沖縄の若者達に、次代のウチナーネットワークの発展に資する貴重な体験を与えていただいたことを心から感謝申し上げます。

いっぺーにふえーでーびたん。Thank you very much.

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会

会長 山城 貴子

(沖縄県文化観光スポーツ部文化スポーツ統括監)

目次

はじめに.....	海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会 会長 山城 貴子	
参加者・事業担当者.....		3
事業実施スケジュール.....		4
事前研修.....		5
本研修アメリカ合衆国カリフォルニア州派遣 8月11日(土)~8月20日(月).....		7
現地活動日誌 ~カリフォルニア本研修にて学生が綴った感想~		
事後研修・報告会.....		18
参加者感想.....		19
行動宣言.....		29
派遣後の活動~研修での学びを学校の授業やイベントで発信し活躍!~		30
派遣後アンケート.....		33
ホストファミリーアンケート.....		36
新聞記事.....		39
編集後記.....		42



参加者・事業担当者

参加者



比嘉 修平
名桜大学4年次



金城 大輝
専門学校日経ビジネス2年次



安田 慶之丞
専門学校日経ビジネス2年次



大城 里緒
沖縄国際大学1年次



新里 航平
名桜大学1年次



瑞慶山 姫菜
具志川高等学校3年



平敷 雅
那覇国際高等学校2年



金城 明莉
向陽高等学校1年



井上 奈乃羽
名護高等学校1年



山川 花音
沖縄尚学高等学校1年



引率者
石橋 亜紀子
沖縄県 交流推進課



引率者
小野 英美
沖縄県 交流推進課



引率者
玉城 慎也
(株)国際旅行社



担当者
新里 聡
(株)国際旅行社



担当者
眞壁 由香
沖縄NGOセンター



担当者
永田 有希
沖縄 NGO センター

事業実施スケジュール

日程	内容	場所
4月11日(水)	参加者募集告知開始	
5月20日(日)	参加者募集説明会	JICA 沖縄 多目的室
5月25日(金)	応募〆切	
5月28日(月) ~29日(火)	参加者一次選考会(書類選考)	沖縄県庁
6月7日(木) ~8日(金)	参加者二次選考会(面接)	沖縄県庁
6月11日(月)	参加者決定	
7月7日(土)	第1回事前研修	JICA 沖縄 セミナールーム 209
7月22日(日)	第2回事前研修 Part.1	JICA 沖縄 多目的室
28日(土)	第2回事前研修 Part.2	JICA 沖縄 セミナールーム 311
8月4日(土)	第3回事前研修	JICA 沖縄 多目的室
8月11日(土) ~20日(月)	本研修	アメリカ合衆国カリフォルニア州 (北米沖縄県人会)
9月1日(土)	事後研修	JICA 沖縄 セミナールーム 311
10月6日(土)	報告会	JICA 沖縄 多目的室



事前研修

第1回事前研修: 7月7日(土)10:00~17:00 (JICA沖縄 セミナールーム209)

1. 内容: (1)オリエンテーション(保護者出席)
(2)アイスブレイク・チームビルディング
(3)課題発表「カリフォルニアについて」
(4)移民学習(フォトランゲージ)
(5)事業目的確認

2. 協力者: 沖縄パンアメリカン連合会会長 大山盛稔

金城小百合(2016年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系2世)



第2回事前研修 Part1: 7月22日(日)9:00~17:30 (JICA 沖縄 多目的室)

1. 内容: (1)北米沖縄県人会・ホストファミリーとスカイプで挨拶
(2)北米沖縄県人会について
(3)海邦養秀OB・OGとのゆんたくタイム
(4)課題発表「私のファミリーヒストリー」「地域の移民の歴史について」
(5)英語学習

2. 協力者: 村田奈美恵(2018年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系4世)

金城小百合(2018年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系2世)

大城綾香、比嘉友梨子、比屋根愛海、国吉優那、井上泉、田本彩華、城間美貴、島袋りおな

(海邦養秀過去参加者)

佐久田マリア(浦添市南米移住者子弟研修生)





第2回事前研修 Part2: 7月 28 日(土)9:00~17:30 (JICA 沖縄 セミナールーム 311)

1. 内容: (1) チームビルディング・チームミーティング
- (2) JICA 沖縄図書館見学
- (3) 講座「沖縄の歴史と移民」
- (4) 移民学習(移民カルタ)

2. 協力者: 講座講師 山城彰子(琉球大学非常勤講師)



第3回事前研修: 8月 4 日(土)9:00~17:00 (JICA 沖縄 多目的室)

1. 内容: (1) 課題発表「カリフォルニア研修での訪問先について」
- (2) 英語学習
- (3) 沖縄県系人のみなさんとゆんたく
- (4) 「世界のウチナーンチュの日」を帰国後の活動内容にどのように取り入れていくか
- (5) 決意宣言「カリフォルニアで大切にしたい事」
- (6) ホームステイの注意事項・危機管理の確認について

2. 協力者: 金城小百合(2016 年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系 2 世)

マイヤ・ゲスリング(2016 年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系 3 世)

佐久田アンドレス、佐久田マリア、マエサト サマンサ アケミ(県内在住県系人)



本研修アメリカ合衆国カリフォルニア州派遣

期間: 8月 11 日(土)~8月 20 日(月) 10 日間 (カリフォルニア滞在期間 8日間)

日付	行程
1日目 8/11(土)	AM 那覇空港集合 那覇発 羽田へ 羽田空港着
	PM 羽田発 ロサンゼルスへ
	AM ロサンゼルス国際空港着 北米沖縄県人会館にてオリエンテーション PM ウェルカムパーティ
2日目 8/12(日)	AM リトル・トーキョー散策 全米日系人博物館(JANM)見学
	PM 二世ウィークパレード参加
3日目 8/13(月)	終日 各ホストファミリーとフリータイム
4日目 8/14(火)	AM 北米沖縄県人会館ボランティア 清掃活動 ポットラックパーティー
	PM 北米沖縄県人会館ボランティア 図書室書籍整理
5日目 8/15(水)	AM ロサンゼルス シティーツアー サンタモニカ、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)、ハリウッド散策
	PM メジャーリーグ野球観戦
6日目 8/16(木)	終日 各ホストファミリーとフリータイム
7日目 8/17(金)	AM 日系企業訪問 (1) サンヨー食品 (2) トーキョー・セントラル見学
	PM 北米沖縄県人会ウチナーグチクラス参加 ポットラックパーティー
8日目 8/18(土)	AM 羅府中央学園訪問
	PM 北米沖縄県人会 若者交流会 フェアウェルパーティー
9日目 8/19(日)	AM ロサンゼルス国際空港集合 ロサンゼルス発 羽田へ
10日目 8/20(月)	PM 羽田空港着 羽田発 那覇へ 那覇空港着

1日目:平成 30年8月 11日(土)

時間	内容	場所等
5:30	集合・チェックイン・出発式	那覇空港
7:15	JAL900 便 那覇空港→羽田空港	
12:20	DL006 便 羽田空港→ロサンゼルス国際空港	
～以下 LA時間～		
9:17	ロサンゼルス国際空港到着 北米沖縄県人会(OAA)・ホストファミリーお迎え	ホストファミリー車で 移動
11:30	オリエンテーション	OAA 会館
12:30	ウェルカムパーティー (Facebook 記事担当:石橋亜紀子)	OAA 会館
15:00	解散	

【出発・ウェルカムパーティー】

(1)内容:那覇出発、北米沖縄県人会館訪問、ウェルカムパーティー

(2)場所:空港、北米沖縄県人会館

(3)Facebook 記事(担当:石橋亜紀子)

無事にカリフォルニアに到着しました。北米沖縄県人会の皆さんの温かい歓迎に、学生はとても感動していました。そして県人会の会館に到着してびっくり！！予想以上に大きい建物に、学生からも「じょ～と～！」という声が聞こえました。改めて世界のウチナンチュのパワーを感じました。

ウェルカムパーティーでは、会場に入った瞬間、温かい拍手とみなさんの素敵な笑顔に、とても嬉しい気持ちになりました。美味しい食事をいただきながら、県人会のみなさんと交流を楽しみました。学生達は「積極的に交流したい！」と出発前に決意したとおり、連絡先を交換していました。



2日目:平成30年8月12日(日)

時間	内容	場所等
10:00	リトル・トーキョー集合 1日のスケジュール説明 リトル・トーキョー散策	ホストファミリー送迎 リトル・トーキョー
11:00	全米日系人博物館見学(Facebook 記事担当:金城大輝)	
12:30	昼食	
15:00	OAA 会員と合流 2世ウィークパレードについて説明 2世ウィークパレード参加(Facebook 記事担当:井上奈乃羽)	
18:00	解散	

【全米日系人博物館見学】

- (1)内容:移民や日系人・沖縄県系人の歴史について学習
- (2)場所:全米日系人博物館
- (3)Facebook 記事(担当:金城大輝)

全米日系人博物館では日系人はもちろん、沖縄の移民の歴史について深く学ぶことができました。戦前はハワイの人口の四割が日系人と聞いた時は驚きを隠せませんでした。特に、印象的だったのがハワイの県系人アメリカ軍隊の翻訳者の活躍でした。彼らのおかげで、第二次世界大戦で多くのウチナンチュが助かり、アメリカ人の日本人に対する見方が変わったと聞いた時は、海外にいたウチナンチュの活躍で、今の自分たちがいるんだなと感じました。

また、アメリカの日系人の収容所は一見苦しい生活のように見えますが、様々な職種の日系人がいたため、収容所内に病院や学校などの施設があり、比較的自由な行動が許されていたと説明を聞きました。私が思っていた収容所とは異なりとても驚きました。



【2世ウィークパレード】

- (1)内容:北米沖縄県人会会員の方とパレードへ参加
- (2)場所:リトル・トーキョー

(3)Facebook 記事(担当:井上奈乃羽)

全米日系人博物館を見学し、お昼ご飯を食べた後は、2世ウィークのパレードに北米沖縄県人会のみなさんと一緒に参加しました。大勢の人が見ている緊張したけどとても楽しかったです！歩き終わってからは青森県人会のねぶたや、徳島県人会による阿波踊りなど、日本でも見たことがない文化をカリフォルニアで見ることができて、とても面白かったです！どの県人会も沖縄県人会と同じように、自分の県を誇りに思っていることがすごく伝わってきてとてもよい経験ができました。

とても日差しが強くて肌が真っ黒になったけど、それも良い思い出になるくらい楽しく歩くことができました！日本でも全国の伝統を一度にパレードする機会があってほしいと思いました！絶対にまた来ようと感じました。



3日目:平成30年8月13日(月)

時間	内容	場所等
終日	各ホストファミリーとフリータイム	

【ホストファミリーフリータイム】

今回お世話になっている北米沖縄県人会の各家庭にてフリータイムを過ごしました。



4日目:平成30年8月14日(火)

時間	内容	場所等
10:00	OAA 会館集合 館内案内	ホストファミリー送迎
10:15	OAA ボランティア活動 (Facebook 記事担当:瑞慶山姫菜) ①清掃活動	OAA 会館
12:00	昼食(ポットラックパーティー)	
13:30	OAA ボランティア活動 ②図書室書籍整理	OAA 会館 図書室
17:00	解散	ホストファミリー送迎

【北米沖縄県人会 ボランティア活動】

(1)内容:北米沖縄県人会会員の方とボランティア活動

(2)場所:北米沖縄県人会館

(3)Facebook 記事(担当:瑞慶山姫菜)

北米沖縄県人会館の清掃活動と図書室の書籍整理をするボランティアに参加しました。北米沖縄県人会館はとても広いため、参加者でグループごとに各部屋を掃除しました。私は、よくボランティアに参加するというOAAのDevin、Caden兄弟と掃除をしました。彼らはとても親切で優しく、楽しく掃除をすることが出来ました。たくさんコミュニケーションを取れたと思います。ボランティアに参加し、県人会を支えていく次期リーダーとして頑張っている彼らと関わることが出来て嬉しく思いました。そして私は彼らを見ていろんなことを考えました。

昼食はポットラックランチでした。海邦養秀のメンバーからはケーキを差し入れて、県人会のみなさんと交流を深めながらランチを食べました。私は沖縄の伝統や県人会の未来について考え、話し合うことが出来ました。伝統を受け継いでいくためにどんな事をしなければならないのか考えることが出来ました。

午後はモニカさんに教えてもらいながら、図書室の書籍整理をしました。県人会会員の方は日本語が読める人が少ないので、私達で書籍のデータ整理をしました。図書室にたくさんの沖縄の本があることにびっくりしました。



5日目:平成30年8月15日(水)

時間	内容	場所等
10:30	OAA 会館集合	ホストファミリー送迎
10:30	ロサンゼルス シティツアー (Facebook 記事担当:平敷雅) ①サンタモニカ ②カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA)	バス移動
12:00	昼食 (UCLA キャンパス内でテイクアウト)	
13:30	ロサンゼルス シティツアー ③ハリウッド	
17:00	野球観戦 (Facebook 記事担当:新里航平) ドジャース対ジャイアンツ	
21:00	解散	ホストファミリー送迎

【ロサンゼルス シティツアー】

- (1)内容:ロサンゼルスシティツアー
- (2)場所:サンタモニカ、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、ハリウッド
- (3)Facebook 記事(担当:平敷雅)

まず初めに行ったサンタモニカは美しい海とヤシの木、アトラクションやお土産が揃う、LA 観光でも有名な場所でした。グループに分かれて行動し、ジェットコースターに乗ったり、プリクラを撮ったり、たくさん写真を撮るなど、それぞれ思いおもいの行動をしました！次に行った UCLA は世界大学ランキングでは 11 位、国内大学ランキングでは 2 位の大学です。大学とは思えないほど、大学構内がとても広く、オシャレで、アメリカの学生達のキャンパスライフを生で見ることができました。ハリウッドでは、キャラクターに扮した人達に少し警戒しながら(お金が取られるんです！)、ハリウッドサインを見たり、ハリウッドスターたちの手形を探して写真を撮ったりしました！

LA は沖縄と気候や環境が似ているところもあり、観光産業でも見習いたいところがたくさんありました。



【野球観戦 ロサンゼルス・ドジャース対サンフランシスコ・ジャイアンツ】

- (1)内容:メジャーリーグ野球観戦
- (2)場所:ドジャースタジアム

(3)Facebook 記事(担当:新里航平)

野球大国アメリカはスタジアムの規模はもちろん、観客の雰囲気も日本と異なり、試合は大いに盛り上がりました！！会場で一番驚いたのは、ブーイングです。アメリカでは一般的なブーイングですが、日本では嫌う人も多くいます。しかし、「これで選手が成長しているのでは？」と感じました。ある選手がブーイングをされていたので、理由を調べると、彼は前日の試合で乱闘の原因となる手を出した選手だったのです。ファンでありながら、チームの選手が打席に立つ前からブーイングが起こったのは、前日の試合が原因で、暴力はいけなことだというメッセージだったのです。それ以外にも成績の出ない選手に対するブーイングも必要なものだと考えます。グラウンドに立つ選手は、多くの困難を努力で乗り越えてきました。そんな彼らにとっては程よい刺激であると思います。

実際にスタジアムではファンの熱意が伝わりました。ブーイングだけではなく、大きな声をだして選手の名前を呼んだり、歌ったり、踊りだしたりと、応援方法は様々ですが、すべてにチームへの愛情を感じます。アメリカのスポーツに対する国民性を感じることができました。

監督のデーブ・ロバーツさんが県系人であること、九回に前田健太選手が登場したことで、スポーツの分野でもウチナンチュ、日本人が世界で活躍する姿を見ることができ、誇りに感じました。会場では、北米沖縄県人会の方々から球場のことやアメリカの野球豆知識を教えてもらいました。初めて球場で会った会員の方とも英語で話しました。ドジャースのピンバッチのお土産もいただいたり、アメリカならではのフードも試食させていただきました。北米沖縄県人会のみなさんありがとうございました！そして試合の結果はドジャースが勝ちました！！



6日目:平成 30 年 8 月 16 日(木)

時間	内容	場所等
終日	各ホストファミリーとフリータイム	

【ホストファミリーフリータイム】

今回お世話になっている北米沖縄県人会の各家庭にてフリータイムを過ごしました。





7日目:平成30年8月17日(金)

時間	内容	場所等
8:30	OAA 会館 集合	ホストファミリー送迎
8:30	日系企業訪問 (Facebook 記事担当: 安田慶之丞) ①サンヨー食品 ②トーキョー・セントラル	バス移動
13:00	昼食 (IN-N-OUT BURGER)	
14:00	ショッピングモール (Del Amo Fashion Center)	
18:00	ウチナーグチクラス (Facebook 記事担当: 比嘉修平)	OAA 会館
19:30	夕食 (ポットラックパーティー)	
21:00	解散	ホストファミリー送迎

【日系企業訪問】

- (1)内容: 日系企業訪問、施設見学
- (2)場所: サンヨー食品工場、トーキョー・セントラル
- (3)Facebook 記事 (担当: 安田慶之丞)

日系企業を訪問では、まず沖縄の方がジェネラルマネージャーを務めているサンヨー食品の工場を見学しました。サンヨー食品はラーメンのサッポロ一番を製造している会社です。サンヨー食品では日本人とアメリカ人だけではなくメキシコ人の方々も働いていました。そのため施設内のポスターには日本語、英語、スペイン語で書かれた掲示物がたくさんあり、日本では感じることのできない多国籍な職場の環境を体験することができました。また、日本にはない現地の人に合わせた、アメリカ限定のビーフ味などのラーメンがある事や全米でラーメンがブームなどもあり、工場はとても忙しいと言っていました。

その後にはトーキョー・セントラルというスーパーマーケットに行きました。トーキョー・セントラルでは、日本の食品や雑貨を多く取り扱っていました。日本の寿司や蕎麦などはもちろん、沖縄の泡盛もありました！日系の方々以外にもたくさんの国籍のお客さんがいて日本食ブームを感じる事ができました。



【ウチナーグチクラス】

(1)内容:北米沖縄県人会が開催しているウチナーグチクラスへの参加

(2)場所:北米沖縄県人会館

(3)Facebook 記事(担当:比嘉修平)

はいさい！わんねー沖縄からちゃーびたん、修平やいびーん。8月17日は県人会のウチナーグチクラスに参加してきました。このクラスは通常月1回、第3土曜日に行われています。17日は多くの人に参加していました。授業ではウチナーグチで自己紹介をしました。英語で話すよりもウチナーグチで話す方が緊張しました。参加者の中には80歳以上の人もいました。私のとなりにいた新垣ジェームズさんは87歳で、このクラスの最年長です。話してみると、とても元気な方で、みんなとゆんたくするのが長生きの秘訣だと言っていました。また、福島県にルーツを持つ人もいました。その人は奥さんがウチナンチュだったので、奥さんに連れられてこのクラスに参加したそうです。ウチナーグチクラスに参加にして、私もウチナーグチで会話ができるようになりたいと思いました。まずは両親とウチナーグチで喋る機会を作ります。そして来年までには、おじーおばーとウチナーグチでゆんたくができるように頑張ります！



8日目:平成30年8月18日(土)

時間	内容	場所等
9:30	羅府中央学園集合	ホストファミリー送迎
10:00	羅府中央学園(日本語学校)授業見学 (Facebook 記事担当:大城里緒)	
12:00	昼食	OAA 会館へ移動
14:00	若者交流会(Facebook 記事担当:金城明莉)	
17:00	フェアウェルパーティー (Facebook 記事担当:山川花音)	
20:30	解散	ホストファミリー送迎

【羅府中央学園(日本語学校)訪問】

(1)内容:日本語学校授業見学、学生の交流

(2)場所:羅府中央学園

(3)Facebook 記事(担当:大城里緒)

羅府中央学園はロサンゼルスにある日本語学校で、4歳から高校生まで多くの生徒が学んでいます。また、ここではアメリカの文化、生活習慣に合うように日本で作られた教科書ではなく、現地で作られた教科書を使用し

ています。日本語を第1言語とする生徒、第2言語とする生徒など様々な生徒がいますが、みんな楽しそうに勉強していました！初級クラスではボールの受け渡しをするアクティビティをしながら、話す練習をしてとても驚きました。私は実際にそれに参加させて頂き、子供達と一緒に勉強するという貴重な経験が出来ました。

休み時間には、サッカーやバスケットボール、おしゃべりなどをして、より子供達と距離を縮められたと思います！短い時間ではありましたが、交流や授業見学、質疑応答などを通して得たものを今後それぞれが活かしていけるようにしたいです。



【若者交流会】

(1)内容:北米沖縄県人会青年と意見交換・交流

(2)場所:北米沖縄県人会館

(3)Facebook 記事(担当:金城明莉)

若者交流会には多くの北米沖縄県人会の若い世代の方が参加しました。3つのグループに分かれ、いくつかのトピックテーマについて意見交換をしました。一人一人の沖縄に対する意識が非常に高いことを改めて感じました。沖縄の若者より海外の若者のほうが三線や踊り、エイサーを習っているような気がしました。海外にいるウチナンチュは、自分たちが三線等をやる事で沖縄との繋がりが感じられる一方、沖縄では、既に沖縄らしい環境が整っているため、沖縄の若者の伝統芸能への関心があまりないのだと知りました。

世界のウチナンチュと繋がり、関係を深めるために、私達海邦養秀のメンバーはここに来ているのだという高い意識を持ってこの交流会に参加する事ができました。世界のウチナンチュと繋がるためには沖縄を知ってもらわないといけない。沖縄を知ってもらうためには自分達若者が沖縄をもっと活発なものにしなければならぬ。まず自分が何をすべきか、沖縄全体で考えると凄く難しいので、私はまず住んでいる地域を盛り上げる役割を自分なりにやりたいと考えました。私の住む地域は歴史のある地域ですが、最近では子供会の人数の減少や、地域の祭りに参加する人が年々減っている事が課題であると感じました。なので、たくさんの方が自分の地域を知ってもらえるように、地域の紹介をしたいと考えています。地域で出来たのならば、市、沖縄全体を盛り上げることができると思っていますので頑張りたいと思います。



【フェアウェルパーティー】

- (1)内容:フェアウェルパーティー
- (2)場所:北米沖縄県人会館
- (3)Facebook 記事(担当:山川花音)

本当はもっとカリフォルニアに居たかったけど、最終日の夜は北米沖縄県人会のみなさんがさよならパーティーを開いてくれました。私たちのために、ウェルカムパーティのときより多くの方が来てくれたのを感じました。最後の最後まで、素敵なプレゼントや温かいメッセージを私たちにくれました。こんなに寂しい気持ちになるぐらい、北米沖縄県人会の方々には本当に優しくしてくれました。

また5年後や10年後いつになるかわからないけど、絶対全員でまたカリフォルニアに行こうと約束したので、今回でさようならではもちろんありません！これから手紙やSNSいろいろな方法でもっともっと繋がりを深めていこうと思っています。北米沖縄県人会のみなさんに、私たち10名を受け入れてよかったと思ってもらえように、沖縄に帰ってからウチナーネットワークの構築、継承に向けて活動をします！私は帰ったらウチナーグチを習いたいと思っています。これからが学んだことを実践していくスタートです！まだまだ楽しみがあります！

今回のプログラムを通してたくさんのことを学び、自分の考え方が変わりました。今回の派遣を活かして大きく成長していけるように頑張ります！



9日目・10日目:平成30年8月19日(日)~20日(月)

時間	内容	場所等
8:30	ロサンゼルス国際空港集合	ホストファミリー送迎
11:02	DL7便 ロサンゼルス国際空港 → 羽田空港	
~以下日本時間 8月20日(月)~		
17:10	NH1097 羽田空港 → 那覇空港	
19:40	那覇空港着 閉会式	那覇空港 ANA 側 1階到着ロビー
20:00	解散	

事後研修

事後研修:9月1日(土)10:00~17:00 (JICA沖縄 セミナールーム311)

1. 内容:(1)カリフォルニア研修振り返り

・感動したこと ・苦勞したこと ・変わったこと ・県人会の方にインタビューしたこと

(2)行動宣言

(3)報告会打ち合わせ

(4)パネル作成



報告会

報告会:10月6日(土) 13:30~16:30 (JICA沖縄 多目的室)

1. 内容:(1)事業概要説明

(2)研修報告

(3)パネルディスカッション

(4)行動宣言

(5)来場者からの感想

(6)学生代表挨拶

2. 主な来場者:保護者、教員、学生、国内沖縄県人会会員、現地受け入れホストファミリーなど

来場者の方から「自分のルーツを考えるきっかけになった」「沖縄移民について勉強しようと思った」などの感想やアンケートの声があり、学生たちはしっかりと「世界のウチナンチュ」を発信することができた。



参加者感想

名桜大学 4年次 比嘉 修平 ～世界のウチナーンチュ大会で再会できる日を願って～

私が本プログラムに参加した理由は、アメリカにある沖縄県人会とウチナーンチュ達を知りたかったからです。2018年2月に南米ペルーにて世界若者ウチナーンチュ大会に参加し、沖縄県人会を盛り上げようとする各国の若いウチナーンチュたちと交流しました。その時、彼らの沖縄文化継承への熱い想いに感動し、私はもっと世界のウチナーンチュと交流したいと思い、海邦養秀ネットワーク構築事業に応募しました。10日間の短い期間でしたが、学び多い充実した研修を過ごすことが出来ました。

アメリカは移民の国と言われ、多様な人種、民族が暮らしています。日本にルーツを持つ人も多くいて、ロサンゼルス日本人街リトル・トーキョーでは、いたるところから日本語が聞こえてきました。日本の商品も豊富、ラーメンも美味しくて、アメリカで暮らしていてもホームシックにはならないだろうなと思いました。また、ロサンゼルス空港に着いた時、「めんそーれー」という声が聞こえてきて、「あっ、沖縄だな」と感じました。北米沖縄県人会の方々と交流してみて、アメリカでも沖縄を感じる事ができ、ウチナーンチュとしての誇りを再認識しました。

アメリカのウチナーンチュは一世の方が多という印象を受けました。それゆえ、普段から日本語を使って会話をしている方が多く、ブラジルの日系人より日本人っぽいと感じました。日本語を話せる若い人も多くいて、ウチナーグチや沖縄文化の継承がきちんと行われていることに驚きました。北米沖縄県人会が開催しているウチナーグチクラスに参加すると、福島県にルーツを持つ方や、日本にルーツを持たないアメリカ人の方もいました。彼らは沖縄に興味を持ち、県人会の一員として共に沖縄文化を学んでいました。北米沖縄県人会は、必ずしも沖縄にルーツを持つ人だけではなく、沖縄に興味がある人なら誰でも参加できます。そこで私は、いちやりばちよーでーや多様性を感じる事ができました。

このプログラムを通して、アメリカにもウチナーンチュの心を持ち、活躍している方がたくさんいることを知りました。ウチナーグチクラスの時に83歳のおじいちゃんが言った、「生まれ島ぬ言葉忘しねー、国忘ゆん。」に胸を打たれました。生まれた島の言葉を忘れることは故郷を忘れてしまうことだ、という意味で、沖縄で生まれながらもウチナーグチが話せない、習おうとしなかった私は、このままではいけないと思いました。これから故郷である沖縄をもっと知り、この研修で感じたことを友人、さらに周りの人達に伝えていきたいです。また、今回アメリカで出会えた人たち、海邦養秀メンバーたちと絶えず連絡を取っていきたいです。2021年に開催する世界のウチナーンチュ大会で、またみんなに会えることを楽しみにしています。

専門学校日経ビジネス 2年次 金城 大輝 ~国境越える沖縄の素晴らしさ~

私は海邦養秀ネットワーク構築事業に参加する前までは、沖縄の歴史や移民などにあまり興味がありませんでした。今回応募した理由もカリフォルニアに行ってみたいという軽い気持ちでした。しかし、研修プログラムを通して多くのことを吸収し、様々な価値観や沖縄の素晴らしさに気づきました。そして、カリフォルニアにいた約8日間、北米沖縄県人会(OAA)の方と交流を深めることで、今までの海外に住む県系人としての辛い体験や沖縄に対する想いを学ぶことができました。

本研修中で特に印象に残っているプログラムが二つあります。一つはリトル・トーキョーでのプログラムです。私たちはリトル・トーキョーの全米日系人博物館で、日系人・沖縄県系人の移民の歴史を学びました。沖縄戦でのハワイウチナンチュなどの活躍や、強制収容所内での日系人の暮らしなどを学び、移民史の深さを知ることができ、さらに深く調べたいと思いました。また、年一回開催される2世ウィークのパレードにOAAの方々と一緒に参加しました。2世ウィークのパレードでは、沖縄の文化が国境を超え、県系人によってまた新たな文化をアメリカで作り出している事に驚きました。移民先でここまでウチナンチュとしての存在を確立していることを目の当たりにし、ウチナンチュとしての誇りを再認識できました。

二つ目の印象的なプログラムはOAAの若者達との交流会です。この交流会で多くのOAAの若者と交流をし、中にはまだ沖縄に来たことない人も多くいました。彼らの本当の沖縄を知りたいという強い思いなどを知り、今の沖縄に行くと彼らが想像している沖縄と少し違い失望してしまうのかなと感じました。また、彼らは沖縄を愛する力が沖縄にいる私達よりも強く、私自身彼らを目の前にするとウチナンチュとして恥ずかしい思いをしました。なので、彼らにも負けないぐらい勉強をし、また学ぶだけでなく三線など、沖縄にしかない文化にも触れようと決意しました。

ホストファミリーとの交流もとても良い思い出になりました。私のホストマザーののりこさんは、宮古島市出身の一世の方でした。のりこさんは30歳の頃、英語を聞くこと、話すことができないままアメリカに行き、言語の壁で苦しい思いをしたと話してくれました。アメリカで仕事をしたいという思いから、アメリカの英語学校と看護学校で勉強をしたそうです。当時のお話を聞くと、のりこさんがどれだけ異国地で苦労したのか伝わり、このような体験談は現地で聞くことができたからこそ、大変さがより一層感じることもできたのだと思います。

海邦養秀ネットワーク構築事業に参加したことで、今まで経験した事がないくらい、自分自身の成長を感じることができました。ウチナンチュとしてのあり方を海外にいるウチナンチュから学びました。私は、表面的な沖縄好きではなく、しっかり歴史、文化など色々な事を勉強し、日本人、外国人などに沖縄に行きたいと思わせるようなウチナンチュであるために、OAAの方々や築いた関係性や繋がりを今後も継続し、そして新たなネットワークを作るために、海外に行った時には沖縄県人会を訪ねたいと思います。

専門学校日経ビジネス 2年次 安田 慶之丞 ～アメリカで活躍する県系人～

私が海邦養秀ネットワーク構築事業に参加しようと思ったきっかけは、海外にある沖縄県人会の活動や、現地の人々がどのような志で沖縄の伝統芸能等を行っているのかが知りたかったからです。また英語を専攻しているということもあり、純粋にアメリカの文化や多民族国家な雰囲気を感じてみたかったのも理由の一つでした。

現地では初日から北米沖縄県人会(OAA)の皆さんがウェルカムパーティーを開いてくれました。県人会館には予想以上に多くの県人会員の方々が来てくださり、圧倒されたのを今でも覚えています。更に老若男女様々な人たちや、沖縄にルーツのない人も参加していることに衝撃を受けました。県人会会員の皆さんに共通していたのは沖縄をとっても愛していることだと思います。会員の方の中には沖縄に行ったことがない人もいましたが、そういった人達は口をそろえて沖縄に行ってみたくて言っていました。

なぜ会員の方々が沖縄に対してここまで熱い想いがあるのか気になり、私と年齢の近い県人会の方二人に質問をしました。二人とも沖縄へ行くまでは伝統文化に関わっていませんでしたが、沖縄へ行った際に沖縄の三線やエイサーに触れたことをきっかけに興味を持ち、自分の持つ「ルーツ」や「アイデンティティ」をもっと知りたかったそうです。この話を聞いて、自分自身が沖縄に住み、沖縄の文化に触れることができるにも関わらず、彼らのような発想を抱けなかった事に後悔しました。また、現地での研修ではウチナーグチクラスや三線教室に参加する機会がありましたが、どちらも十分な知識もなかったため、現地の方々に残念がられ、とても恥ずかしい思いをしました。

今回の派遣を通して、私は今までやってこなかった沖縄の伝統文化に触れたいと思うようになりました。特に三線を通して沖縄の素晴らしい伝統文化を沖縄県内のみならず、県外や海外に発信できる人材になりたいです。更に専門学校卒業後の進路を国内の大学進学から留学へ変更しました。留学地には沖縄の県人会がある地域を選び、沖縄からの助っ人として現地の活動などを活性化させたいと思います。そして更に「ウチナーネットワーク」を構築していきたいです。

また派遣後でもこの研修で出会ったホストファミリーや北米沖縄県人会の人たちとは今でも連絡を取っており、SNSで繋がっている人たちは、私が沖縄そばなどの沖縄に関する写真をアップするとすぐにメッセージが来ます。そして、北米沖縄県人会の活動の画像が投稿されれば私もすぐにメッセージを送っています。離れていてもこのような関係性をこれからも続けたいです。

沖縄国際大学 1年次 大城里緒 ～イチャリバチョーデー！カリフォルニア～

私は曾祖父がハワイ移民だったことがきっかけで沖縄移民に興味を持ち、高校3年時にウチナージュニアスタディー事業に参加しました。その際、世界のウチナーンチュの繋がりを実感し、次は私が世界のウチナーンチュ達に会いに行きたいと思いました。また大学で学んでいる琉球文化や島くとぅばの知識を更に深める絶好の機会だと思い応募を決めました。

私がカリフォルニアでの研修で特に印象的だったのは、北米沖縄県人会(OAA)の方の沖縄に対する関心の高さです。OAAとの若者交流会では、沖縄に住む私たちでさえ深く掘り下げない話題まで意見を交わし合う姿に衝撃を受けました。彼らは沖縄やウチナーンチュ、島くとぅば、沖縄の伝統芸能などについても意見をしっかり持っていて、私を含めて今の沖縄の若者に足りないものが何か気付かされました。また、私が大学で島くとぅばを学んでいることを話すと、今までされたことがないくらいの質問を投げかけられた事にも驚きました。この経験から、私自身もっと沖縄に関心をもたなければならないと改めて強く思い、自分だけではなく周りとも意見を交わすこと、思いを共有することの大切さを実感しました。ウチナーグチクラス、ポットラックパーティーの際にも多くの県人会の方から私たちに対する想いなどたくさんのお話を聞く事で、世界のウチナーンチュの中にあるウチナーの精神性、沖縄に馳せる想いなど、現地に行かないと感じられないこと、気付けないことを知れたのは本当に貴重な経験になりました。

全米日系人博物館にある日系人部隊のモニュメントに曾祖父の名前が刻銘されていることも行かなければわからなかったことの一つです。博物館での日系人部隊のお話と私の知っていた曾祖父の情報と重なり調べてみると、モニュメントに刻銘されていること、所属していた隊など多くの事がわかり、モニュメントで名前を見つけた時は感動の涙が止まりませんでした。「偶然が重なった奇跡」としか言い表せないくらい本当に感動し、見つけた時の気持ちはずっと忘れないと思います。そして、ウチナージュニアスタディー事業で出会った仲間たちとカリフォルニアで再会できたことも本当に嬉しかったです。再会した瞬間に駆け寄り抱き合った後、当時の様にすぐにおしゃべりに花が咲いたのもいい思い出です。

今回の研修を終えて、今まで以上にもっと世界のウチナーンチュ大会や世界ウチナーンチュ学生サミットなどの活動に参加して、自分自身のネットワークを広げることはもちろん、琉球國祭り太鼓などに参加し沖縄の伝統芸能にもチャレンジしてみようと思いました。そして自分の経験や思いを周りに伝える事で、新しいネットワーク構築のきっかけや、ネットワーク同士を結ぶ架け橋になりたいです。また将来的な目標としては、国語教師になり、島くとぅばを取り入れた授業を行い、ウチナーンチュのアイデンティティ、ウチナーネットワークを継承する人材を育てたいと思っています。

最後に、このような機会を与えて下さった沖縄県の方々、北米沖縄県人会の方々、ホストファミリー、支えて下さった全ての方々に感謝を伝えたいです。特にホストファミリーのビルさん、ドリスさんには本当にお世話になりました。ビルさんとの楽しいドライブ、ドリスさんの絶品エンチラーダ、本当にたくさんの思い出が出来ました。いつかまたカリフォルニアのパパとママのところに「ただいま」と帰ってくるので楽しみにして下さい。本当にありがとうございました。

皆さんのおかげでこんなに多くの経験、出会い、成長をさせていただき本当に感謝しています。イッペーニフェーデービタン。

名桜大学 1年次 新里 航平 ～学んだ、ウチナーンチュの強さと活躍～

海邦養秀ネットワーク構築事業に参加し、北米沖縄県人会(OAA)にお世話になりながら、カリフォルニアのウチナーンチュと交流を深めることで感じたことは「受け継ぐことの大切さ」です。

ウチナーグチが海外沖縄県人会でしっかりと受け継がれていることに衝撃を受けました。二世ウィークのパレードに参加した際にお会いした OAA の方がウチナーグチを話していました。その方は幼い頃にカリフォルニアに移住後、三十年は帰沖していないにも関わらず、とても自然にウチナーグチを話し、沖縄に住む私でさえも理解できない言葉があったほどでした。更に驚いたのは野球観戦でのベンジャミンさんとの出会いでした。ベンジャミンさんはアメリカ人で、沖縄にルーツを持っていませんが、ウチナーグチを話すことができます。沖縄が好きという理由でウチナーグチを独学で始め、OAAの活動などに参加していたのです。OAAではウチナーグチクラスや、祭り・イベントなどを通して沖縄の文化や芸能などを継承しています。そして、それは沖縄県系人にとどまらず、ベンジャミンさんのような沖縄にルーツを持たない人へも受け継がれています。私はそれらを知り、感動と悔しさを感じました。

沖縄から世界に飛び立った人々が、沖縄への想いを忘れずに、文化・伝統を受け継いでいる一方で、沖縄に住む私たちは沖縄のことについて無関心だと思いました。沖縄に住んでいる私たちは、沖縄の自然や芸能が当たり前で、大切にできておらず、継承や保存については人任せや他人事なっていると感じました。今回の派遣をきっかけに沖縄について深く学び、今まで触れたことのない芸能に挑戦し、沖縄に対する想いをさらに深めようと考えました。

また、私たちは沖縄の移民の歴史や、沖縄を想うウチナーンチュが世界に多くいることにも目を向けるべきだと考えました。第二次世界大戦中、戦前移民は収容され、更に差別まで受けた人もいました。多くのウチナーンチュが戦時中の自分のアイデンティティやあり方に悩んだと思います。沖縄で生まれ、故郷を愛す一方で、住み慣れた土地であるアメリカをも愛しているからです。そのような葛藤を持ちながら、戦後は一から生活を始め、今のアメリカにおけるウチナーコミュニティやアイデンティティを形成したのだと現地で感じ取りました。今、アメリカにて日本・沖縄文化が受け入れられているのは、移民した人たちがリトル・トーキョーでの活動などを通して日本・沖縄を発信し続けたからだと思います。

そしてこれらの沖縄県系人の歴史を経て、世界では多くのウチナーンチュが活躍を見せています。MLBの中でも名の知れたチームであるロサンゼルス・ドジャースの監督はデιβ・ロバーツさんという沖縄にルーツのある方です。彼は沖縄生まれのウチナーンチュです。実際にドジャースの試合を見ることで、世界で活躍するウチナーンチュを肌で感じることができました。他にも、豆腐やラーメンなどアメリカにて日本の食文化を発信するお仕事に携わった人の中にもウチナーンチュがいました。私は海外に移民したウチナーンチュの存在は知っていましたが、現在でも多くのウチナーンチュが世界で活躍していることを知りませんでした。

今回の派遣をきっかけに世界のウチナーンチュの存在だけではなく、彼らの活躍や努力、歴史にも目を向けるようになりました。感じ取ったことや学んだことを広めるとともに、自分自身が学びを深めることに力を入れて、今後は活動をしていきます。研修に携わりサポートして下さったスタッフの方々、OAAの方々、ホストファミリー、派遣メンバーのみんなに感謝しています。ありがとうございました。

具志川高等学校 3年生 瑞慶山姫菜 ～出逢いに感謝。世界と繋がる「絆」～

海邦養秀ネットワーク構築事業への参加を通して、たくさんの出逢いや、ウチナーンチュの絆を感じる瞬間がありました。

私がこのプログラムに応募したきっかけは、2016年に行われた「第6回世界のウチナーンチュ大会」の「三線一斉演奏」のプログラムに参加したことです。外国人や海外から参加した沖縄県系人など、様々な文化的背景を持った人が参加していました。みんなが沖縄に集まって一斉に同じ曲を弾いていた時間は、私にとってなんと不思議な空間でした。住んでいる場所や環境が違うにも関わらず、音楽で心が通じあっているような感覚に包まれました。その時、沖縄の伝統は、私たちがしっかり受け継ぎ大切にしなければならないと強く思いました。しかし、一人では何もできず、何かいい方法はないかと考えている時、学校の先生から海邦養秀ネットワーク構築事業のプログラムを教えてもらいました。そしてこのプログラムが私の目標を叶えるための大きな一歩となりました。

私を含め、10人の学生が派遣学生として選ばれました。メンバーはとても個性豊かで、それぞれが「沖縄と世界を繋ぐ架け橋となる存在」という将来のビジョンを持っていました。このメンバーに出逢い、話し合っていく中で私の夢を叶えるためのヒントを沢山見つけることができました。なぜなら、みんな違う視点で物事を見ていたからです。事前研修ではカリフォルニアを訪問するにあたっての基礎を学び、様々な知識や考えをメンバーと共有し、私たちは出発しました。

カリフォルニアでは、現地でしか経験することができない多くの事を感じ、学ぶことができました。得たことの大部分は「絆」や「心」といった目には見えないものでした。北米沖縄県人会(OAA)の皆さんは私たちを家族として温かく迎えてくれました。また、ホストファミリーのヤマノハさんは滞在中、朝から晩まで一緒に行動してくださり、感謝しきれない気持ちでいっぱいです。最終日のフェアウェルパーティーは、全員「カチャーシー」で最後を締めくり、私たちは、「いちやりばちよーでー」の心で繋がっている事を再確認できた瞬間でした。あの場にいた人は皆、言葉ではなく気持ちで通じあっていたと思います。また、現地のOAAの若者とは「これからの沖縄について」「沖縄と世界を繋ぐためには」「沖縄の伝統芸能をどう継承していくか」なども話しあうことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

これらの経験を通して、ずっと学んできた三線、そして胡弓などの古典芸能をもっと深く学び、民謡など幅広く沖縄の伝統芸能に関り、沖縄の伝統を守りつつ、音楽で世界のウチナーンチュと繋がりたいと考えています。そして、海邦養秀メンバーとカリフォルニアで出逢った若者たちとの関係を継続し、これからの沖縄や世界にいるウチナーンチュのためにどうしていくかをウチナーネットワークという視点から話しあっていきたいです。学んだことを私たちだけでなく、もっと沢山の人が経験してもらえるようにこのプログラムを知ってもらえるような活動もしていきたいです。

この研修で私が得たものは「絆」と「家族」です。メンバーと私を支えてくれた海邦養秀ネットワーク構築事業スタッフの皆様、OAAの皆様、ホストファミリーのヤマノハさん、このプログラムのことを教え、支えてくれた先生達、そして私を参加させてくれた家族、そのほか沢山の皆様に支えられて今の私があります。この感謝の気持ちを今後しっかり恩返しできる人になりたいと思っています。本当にありがとうございました。

那覇国際高等学校 2 年生 平敷 雅 ~世界のウチナーンチュとの「出会い」「再会」~

私が今回、本事業へ参加する大きなきっかけとなったのは、中学 3 年生の時に「ウチナージュニアスタディー事業」と「第 6 回世界のウチナーンチュ大会」に参加した事です。そこで海外にいるウチナーンチュの皆さんとの交流を通して、沖縄移民の歴史や故郷である沖縄に対する熱い思いに感動したことを覚えています。

今年は、ハワイに次いで北米で二番目に会員数が多いカリフォルニア州ガーデナ市にある「北米沖縄県人会(OAA)」に行きました。この OAA については事前研修で派遣学生皆と学習をしました。しかし、私自身、県人会に行くのも、アメリカに行くのも初めてで、どんな場所にどういう建物が建てられているのか全く想像つきませんでした。空港に着いてすぐに OAA 会館に行きましたが、とても大きくきれいな建物で県人会の皆さんが私達を温かく歓迎して下さい、旅の疲れとこれからの不安が一気に吹き飛びました。

今回の研修を通して様々な「出会い」「再会」がありました。3 年前にウチナージュニアスタディー事業で一緒になった「エイプリル・ウズキ・ニモ」と初日に OAA 会館で再会することができました。その時の感動は言葉では言い表せません。まさかアメリカの地で再会するとは思っていませんでした。この再会をきっかけにウズキのお母さんにも会う事ができ、ウズキを介して新しい友達もできました。他のメンバーも以前に関わった人との再会を果たしていて、本当に感動しました。

また、研修に組まれているプログラムでは必ず新しい「出会い」があったことが非常に印象的でした。出会った方々のルーツや OAA に入るきっかけはそれぞれ違いましたが、遠く離れた国から沖縄を思い続け、「心の中に沖縄がある」という部分ではみんな共通していると感じました。OAA が開催しているウチナーグテクラスに参加した際に、このクラスが開設された当初から約 15 年間通っているジュリアンさんとお話する機会がありました。アメリカ人のジュリアンさんは沖縄にルーツがあるわけではありません。ただ沖縄が好きでこのクラスに通っており、前回のウチナーンチュ大会にも参加したことがあります。たとえ沖縄にルーツが無くても沖縄のことを思ってくれるウチナーンチュと実際に会うことが出来て本当に感激しました。それと同時に自分自身がウチナーンチュであること、海外に存在する小さな沖縄を誇りに思いました。

アメリカの地で日本の文化を体験したことは一生忘れられません。ホストファミリーと行った OBON 祭では、生まれて初めて盆踊りをしました。現地の皆さんは何週間も前から盆踊りの練習をしており、踊りが完璧でした。また「DANGO」と称して売られていたサーターアンダギーが屋台の中で一番人気だったのがとても嬉しかったです。実際に食べてみましたが、沖縄で売られているサーターアンダギーと味や見た目がほとんど変わらず、とても不思議な気持ちになりました。

今回のカリフォルニアでの研修では、私たちを受け入れて下さったホストファミリーの「神谷ファミリー」をはじめ、本当にたくさんの方々にお世話になりました。この出会いを大切に、沖縄と OAA とを繋ぐ存在となれるように頑張ります。また、事前研修からアメリカ研修を共に頑張ってきたメンバーと出会えた事、研修を支えてくれたスタッフの方々にも感謝しています。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

向陽高等学校 1年生 金城明莉 ～私を変えた海邦養秀～

私は高校生のうちに短期で海外に行けるプログラムに参加し、少しでも英語力を磨きたいと考えていました。また、過去にハワイにいるウチナーンチュと交流をした経験があり、世界のウチナーンチュとの交流をもっと深めたいと思ったので、この事業に応募する事を決意しました。合格出来た喜び、メンバーと仲良くできるのかという心配、事前研修の待ち遠しさ、初めて会うホストファミリーと仲良くできるのかという不安、様々な感情を抱きながら、気づけば研修当日になっていました。

10日間の研修は、感動と充実感に満ちていました。2日目のリトル・トーキョーで行われた二世ウィークパレードには多くの日系人が集結し、都道府県ごとに伝統の踊りなどが披露され、47都道府県全てが揃っていることに驚きました。移民当初の一世の方々自分たちの集まる場所として作った場所がリトル・トーキョーなのだと聞きました。一世の方々の努力が残っていて、大切にされている事に感動しました。5日目のLAシティーツアーでは、私が密かに憧れていたハリウッドに行きました。テレビでよく見る本物のHOLLYWOODサインが見れて嬉しかったです。事前に北米沖縄県人会の方から聞いていた通り、有名なキャラクターに扮した人達が歩き回ったり、CDやチラシを配り観光客からお金を貰おうとしたりしている人達もいて、少し怖い思いもしました。でも、このような体験は、私にとって貴重なものとなりました。

私のホストファミリーの赤嶺ファミリーは4人家族で、長女のミシェルは沖縄にとっても関心をもって琴を習っていました。ミシェルは、自分自身が日系人であることに対して良かった点や苦悩について語ってくれました。良かった点は、英語か日本語のどちらか一方しか話せない人の手助けが出来る事だと言っていました。苦悩した点では、アメリカで過ごしていても見た目が日本人に近い事から、日本人とよく間違えられることだそうです。飲食店に行くと日本語で対応され、小学生の頃から周りの同級生に「日本人」とよくからかわれて傷つく場面に遭遇することが何度もあったと言っていました。赤嶺ファミリーはとても温かく優しいファミリーでした。ハードなスケジュールで疲れているはずなのに、常に私の要望に応じてくれました。赤嶺ファミリーと8日間共に過ごして、特に心に残っている事は、一緒に書道をしたことです。それぞれの好きな言葉や名前を書いて、とても楽しい思い出になりました。沖縄について色々質問をされても分からなくて答えられない場面が多々ありました。赤嶺ファミリーが親切に接してくれた恩返しに、私は沖縄の事を伝えたかったのですが、それができず、悔しさや申し訳なさが込み上げてきて、最後のお別れの時は涙が止まりませんでした。

私はこの研修で、沖縄の事を伝える以前に自分が沖縄についての知識が乏しかったという反省点を見つける事が出来ました。これを踏まえて、沖縄を伝える前にまずは自分の知識を広げてから、沖縄を届けたいです。そして、グローバル化が進む現代を担う人材となりウチナーンチュ同士の繋がりを強化し、継承していけるように頑張りたいです。出逢いに感謝し、初心を忘れずに自分らしく生きていく事の大切さをこの事業で学ぶことが出来ました。いっぺーにふえーで一びたん。

名護高等学校 1 年生 井上 奈乃羽 ~沖縄を世界からみて~

私は、この事業の募集説明会に参加しときに初めて気がついた事がありました。それは、海外にある沖縄県人会や沖縄の移民の歴史について、自分が何も知らなかったということです。私は所属している合唱団で世界のウチナーンチュの日制定記念イベントに出演したことや、学校で沖縄の歴史について少し学んだというだけで知っているつもりで、それ以上自分から知ろうとしていなかったのです。説明会で話を聞いた後、先人たちの移民についてもっと知りたい、アメリカにいる沖縄県人会の人たちに会ってみたいと強く思うようになり、本事業に応募しました。

事前研修では、移民についてや、自分の家系図、いまの北米沖縄県人会の活動や課題について沢山調べたりほかのメンバーと意見を共有したりしました。私は名護市に住んでいるので、名護市の移民の歴史を調べたり、北米沖縄県人会の課題が後継者不足だということを知り、自分なりに解決策を考えたりしました。調べるたびに初めて知ることがあり、それを仲間と共有することができ、とても楽しく学ぶことができました。

本研修では、初めてのアメリカ、初めてのホームステイということで不安が多く緊張していましたが、県会の方々や、ホストファミリーがとても温かく接してくれてとてもほっとしました。プログラムの中でも特に心に残っていることが二つあります。一つ目はリトル・トーキョーで開催された二世ウィークパレードです。日本全国の県会がパレードに参加し、私たちも北米沖縄県人会の方と一緒にパレードで行進をしました。それぞれの県会が一生懸命自分の県の伝統文化を披露しているのを見て、全員が故郷に誇りを持っているのを感じ、感動したのと同時に私も沖縄のことを誇れるように学んでいこうと改めて思いました。

二つ目は、ウチナーグチは方言ではなく、一つの言語だという考え方です。移民してきた人たちの生きる力、沖縄に対する熱い想いが伝わってきました。現地ではウチナーグチクラスに参加し、ウチナーグチで自己紹介ができるようになりました。そのウチナーグチを守るためにもっとしゃべれるようになろうと決意しました。

私が派遣前と派遣後で一番変わったことは、沖縄の伝統文化を学びたい、三線やウチナーグチ、空手ができるようにになりたいと思うようになったことです。沖縄の伝統文化を大切に守っていきたいです。

今回の派遣で、インターネットでは知ることのできなかつた、県会の方々の沖縄に対する特別な想いを聞いたり、沖縄について考え直したりすることができました。このことを忘れずに、今度は私が沖縄の人にこの体験を通して感じたこと、学んだことを伝えていきたいです。

最後に、この場を借りて私たちをサポートし、とても貴重な体験をさせてくださった沖縄県や国際旅行社・沖縄 NGO センターのスタッフの皆さん、北米沖縄県人会の方々、一緒に行った仲間感謝したいです。本当にありがとうございました。

沖縄尚学高等学校 1年生 山川 花音 ~私を変えた出会い~

私が海邦養秀ネットワーク構築事業に応募しようと思ったきっかけは、叔母に勧められて募集説明会に参加したことです。説明会に参加して初めて海外県人会や移民について知り、もっと学びたいと思い、このプログラムに応募しました。

私たち派遣メンバーは事前研修で「みんなで家族になろう」と決めました。カリフォルニアでの本研修に向け、沖縄の歴史や海外県人会、そして移民について深いところまで真剣に意見を出し合うことで、みんなとは遠慮の無い本当の家族になることができ、強い絆ができたと思います。

本研修ではアメリカの中にたくさんの沖縄を感じました。カリフォルニアのロサンゼルス国際空港に着いたときから「ハイサーイ！」という県人会の方々の大きな声が聞こえ、北米沖縄県人会が開催するウチナーグチクラスに参加したとき、沖縄にルーツを持たない現地のアメリカ人がウチナーグチで長い挨拶をしていました。三線やエイサー、空手、琉球舞踊など沖縄の芸能をやっている県会の若者が多く、若者交流会で沖縄の話をととても楽しそうな表情や声で話している姿も印象的でした。私のホストマザーは宮古島市出身で、アメリカ人の旦那さんと娘さんの3人家族でカリフォルニアに住んでいます。ホストマザーから「自分の子どもに沖縄のことを教えようと思った時に、全然沖縄のことを知らないということに気付き、北米沖縄県人会に参加した」という話を聞きました。また、必ずしも沖縄出身だからという理由で県会に参加しているわけではないということにも驚きました。「沖縄の歌が好きだから」、「沖縄出身ではないけど、奥さんが県会に入っていたから」など様々な理由で北米沖縄県会に入った方がいて、海外にはこんなにも沖縄が好きなたちがいることに嬉しく思い、この県会の方々の想いは、現地カリフォルニアへ行ったからこそ、直接肌で感じる事ができたことだと思います。

私は今回プログラムに参加して、沖縄について知らないことがまだまだある事に気づきました。沖縄に住んでいる私は、伝統文化や歴史についていつでも学べる環境にいるにも関わらず、どうしてこんなに沖縄の文化はたくさんの人を惹きつけるのかわかりませんでした。しかし、北米沖縄県会の方々は、沖縄の外にいるからこそわかる沖縄の魅力や良さを知っています。私は三線の音がとても好きなので、三線から始めて、そしてウチナーグチなども学んで少しずつ沖縄の魅力を知り、友達など身近な周りの方からその魅力について伝えていきたいと思っています。また、沖縄に住んでいなくても沖縄のことを想っている北米沖縄県会の方々や、世界中にいるウチナーンチュのことをもっと学んで、沖縄で広めていきたいと思っています。そうすることで、私のように沖縄にいるのに沖縄のことを知らないと感じる人が、沖縄のことを知ってほしいと思うのではないかと思ったからです。ウチナーンチュとしての誇りを持ち、世界中でウチナーンチュの絆を繋いでいきたいです！

この研修で築いた関係性や絆を、時間が経っても忘れることなく繋いでいきます。海邦養秀プログラムに関わり、支えてくださった全ての方々にとても感謝しています。本当にありがとうございました！

行動宣言

報告会でカリフォルニアでの経験を活かして今後どのような活動を行っていくか宣言しました。

沖縄のことを多く
の人に知ってもらう

比嘉 修平

・ネットワーク構築
・作った関係の維持
・沖縄と北米県人会と
お互い情報交換

金城 大輝

三線スタート
アメリカで共演

安田 慶之丞

自分が繋がり
周りを繋げる

大城 里緒

沖縄を学ぶ
沖縄を広げる

新里 航平

出逢いに感謝
して、絆を強めていく。

瑞慶山 姫菜

英語と三線
でコミュニケーションをとる!!

平敷 雅

長期留学に行く
沖縄について紹介
新たな繋がり

金城 明莉

沖縄の伝統文化
を大切に守る。

井上 奈乃羽

沖縄のことを知り
友達から広める

山川 花音

派遣後の活動

～研修での学びを学校の授業やイベントで発信し活躍！～

●金城大輝・安田慶之丞（専門学校日経ビジネス）

【実施日】2018年9月20日(木)

【場 所】専門学校日経ビジネス

【内容・感想】

私たちは今まで県系人の方と関わる機会がなく、事前研修で世界に沢山のウチナーンチュがいることを知りました。実際に現地で県系人に会い、アメリカにいるのにまるで沖縄にいるような不思議な感じでした。また、カリフォルニアで出会った県人会の方々とすぐ打ち解ける事ができ、この繋がりを大切にしていきたいと思いました。

派遣後に専門学校でカリフォルニア派遣について発表しました。学校 みんなに世界には沢山のウチナーンチュがいて、彼らは沖縄に憧れを持っている事や、沖縄を知ることの大切さを伝える事が出来ました。これからも、世界で活躍する県系人を県内に広め、新しい繋がりを作りたいと思っています。

●大城里緒（沖縄国際大学）

【実施日】2018年9月21日(金)

【場 所】沖縄国際大学

【内容・感想】

沖縄国際大学で、日本文化学科1年次後期オリエンテーションで海邦養秀カリフォルニア研修についてプレゼンテーションをしました。研修の概要や目的をはじめ、自分の体験や学びをパワーポイントにまとめて発表しました。沖縄移民の存在は知っていたけど、こんなに移民先で活動が盛んだとは思わなかったと驚く人がたくさんいました。また、日本文化学科は琉球文化に興味を持つ生徒が多く、ウチナーグテクラスや三線クラスについての質問が多く出ました。プレゼンテーションを聞いて、次年度応募したいという声が多く挙がったので嬉しかったです。



●比嘉修平・新里航平（名桜大学）

【実施日】2018年10月28日(土)

【場 所】名桜大学学生会館SAKURAUM 6F

【内容・感想】

私たちは毎年10月に開催される世界ウチナーンチュサミットで実行委員として参加し、海邦養秀ネットワーク構築事業について発表しました。今回のサミットは多くの研修生が来てくれて、沖縄の参加者にとっても「世界にいるウチナーンチュのパワー」を知れた機会になったと思います。私達も参加して、ウチナーンチュであることに誇りを感じました。また、「国籍も違う、話す言語も違う、でもウチナーンチュというだけで繋が

れることに感動した」という参加者のコメントに実行委員として参加して本当に良かったと思いました。里緒が参加してくれたのも嬉しかったです。来年もサミットがあります。そして若者大会、2021年には世界ウチナーンチュ大会もあります。今回出会った仲間とまた会えることを楽しみにまた頑張ります。



●派遣学生全員

【実施日】 2018年11月23日(勤労感謝の日・金)

【場 所】 JICA 沖縄

【内容・感想】

派遣学生全員で毎年開催される「沖縄国際協力・交流フェスティバル」へ参加しました。沖縄県のブースで海邦養秀ネットワーク構築事業のコーナーを設け、来場者に事業概要や派遣中の出来事について紹介しました。来場者の方から、「県人会について知る事ができた。」「来年は応募をしてみたい!」という声もあり、しっかり県民に事業周知をすることができました。



●瑞慶山姫菜(具志川高等学校)

【実施日】 2018年12月28日(金)

【場 所】具志川高等学校

【内容・感想】

今回のカリフォルニア派遣について学校で活動報告することによって、ウチナーネットワークや、海邦養秀ネットワーク構築事業について興味を持ってくれる学生が増えました！これからもこのようなプログラムなどに積極的に参加して、「世界のウチナーンチュ」と繋がりたいと思いました。



●派遣学生全員

【実施日】 2019年1月27日(日)

【場 所】JICA 沖縄 多目的室

【内容・感想】

海邦養秀ネットワーク構築事業で過去に参加した先輩とOB・OG会を開催しました。H25 ブラジル、H26 ポリビア、H28 ペルー、H29 アルゼンチン派遣の先輩と派遣時の思い出や、現在の活動状況などの情報を共有し、意見交換を行いました。OB・OG会に参加することで、派遣年度を越えた縦の繋がりができました。



派遣後アンケート

Q1. 滞在中、世界のウチナーンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことができましたか？

具体的な内容・エピソード(抜粋)

- ・ホームステイを通して、人の温かさや彼らの沖縄に対する思いを知ることが出来た。
- ・三線・舞踊などの芸能のレベルの高さに驚いた。特にウチナーグチに関しては高いレベルで、帰国して努力しようと感じた。
- ・ウチナーネットワークを感じた。「〇〇の友達だよ〜！」「〇〇と親戚ってば〜！」と想像よりも身近に感じられた。ウチナージュニアスタディ事業に参加した際の友達と再会出来て嬉しかった。
- ・県人会で名護出身というだけで盛り上がり、年配の方とも住所を交換したりすることが出来た。県系人は特に自分の出身地を大切にしていると感じた。
- ・全米日系人博物館で学んだことは衝撃的だった。
- ・インタビューを通して、どうしてアメリカに来たのかを聞くことが出来た。

Q2. 派遣先の北米沖縄県人会の方々との交流はできましたか？印象に残っている交流は何ですか？

若者交流会

- ・沖縄戦の話、基地問題、今のOAAの状態などについて掘り下げたディスカッションが出来たので、違った視点から沖縄について知ることが出来た。
- ・沖縄の若者が芸能について興味を持たないのは、既に環境が整っているからなのかなと言われて、まさに自分のことだなと心に刺さった。
- ・同年代の若いOAAの人の中には沖縄の歴史を知らない人が沢山いたので、私がしっかり学んでから伝えたいと思った。
- ・一気にウチナーネットワークが広がった気がする。今からは私達とOAAの若い世代とのつながりが大切になってくるので、この出会いを大切に、これからのネットワークの発展に積極的に貢献していきたい。

ウチナーグチクラス

- ・県系人社会ではウチナーグチがなくならないため、継承するために講座があるのに、県内にはあまりないのですごく危機感を持った。
- ・日本語はあまり話せないが、しまくとぅばを話せる方がいたことに非常に驚いた。
- ・沖縄のことについて全然知らない自分がとても恥ずかしかった。
- ・ウチナーグチクラスのインタビューで、クラス最高齢(87歳)の新垣さん、福島県にルーツを持つ人と出会えた。

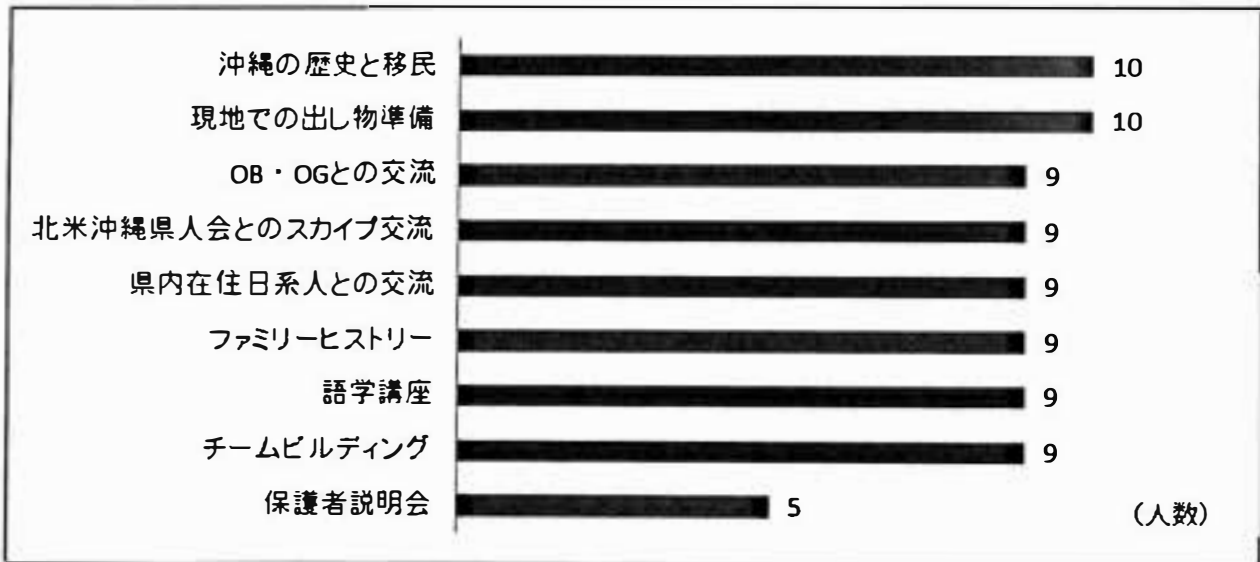
ウェルカムパーティー・ポットラック

- ・ポットラックでは県人会の人と深く話す機会になったのでよかった。
- ・たくさんの人と話すことができ、友達になるきっかけが作れた。

Q3. あなたが期待したことはこのホームステイツアーでどのくらい達成されましたか？(一部抜粋)

- ・達成度：200% 本当の家族のように国境を越えた絆をつくる、ということを期待していたが、想像以上に絆が深まった。
- ・達成度：120% 自分が思っていたよりもたくさんの人と話し、友達になれた。
- ・達成度：100% 常に英語だったため、一週間で英語力と話そうとする力、伝える努力ができた。
- ・達成度：89% ホームステイ自体は100%の達成感だが、これで終わりではなくこれから私にはこの経験やOAAの人の思いを伝える役割があるので、100%の達成はまだ何年かかかると思う。
- ・達成度：98% 色々な人の考えを聞いて、視野が広がったと思う。沖縄に貢献できる仕事に就きたいという気持ちが強くなった。読谷にルーツを持つ人に出会えなかった。

Q4. 事前研修のどのプログラムが役に立ちましたか？(複数回答可)



Q5. その他に事前に学んでいたほうが良かったと思うことを聞かせてください。

- ・伝統芸能や伝統文化について。
- ・上手に出来るコミュニケーションの方法と心がまえ。
- ・ウチナーグチ。時間はかかるけど三線、エイサー等の芸能。
- ・出身地の詳しい歴史学習。「あんたこんなことも知らないの？恥ずかしいよー。」と言われたから。
- ・他の県人会のことも学びたい。
- ・前年度派遣の様子がわかる動画や写真の共有。プログラムを良いものにするためのイメージを派遣学生に持たせることは大切だと思う。

- ・米軍基地関係や沖縄の自然について。

Q6. 現地での研修をよりよくするために改善した方がよいことを聞かせてください。

- ・一日の終わりに振り返りミーティングを30分でも出来ると、更に成長するのではないかと感じた。
- ・もっと若者交流会や現地の方と話しをする機会を増やした方が良かったと思った。1週間は短いと感じた。
- ・若者との交流をもう少し早いスケジュールで行った方が良かったと思う。

Q7. その他感想、要望・意見などがあつたら聞かせて下さい。

- ・出会いに感謝！
- ・「結」出逢いを大切に、そして感謝しなければいけないと思った。私達がこうやって笑って楽しいプログラムが出来たのは家族、先生、そしてこのプログラムに関わっている方々のおかげでなので、その気持ちを忘れずにこれからも頑張っていきたい。皆さんに感謝!!
- ・本当の家族になれたし、もっと県人会との関わりを深くしたいと思った。
- ・いつも感想を言う時、緊張して頭が真っ白になってしまうが、この研修を通して少しは話せるようになったと思う。参加者は自分よりも年下の方がほとんどだったが、みんな元気で毎回元気をもらった。
- ・名刺をみんな作ってもっていったほうが、もっとネットワークが強くなるだろうと思った。
- ・過去の海邦養秀ネットワーク構築事業に参加した人たちの話をもっと聞きたい。
- ・同窓会みたいに、OB・OGが集まる機会が欲しい。

ホストファミリーアンケート

Q1. 事業に関する総合的な感想を記述してください。(良かった点、改善すべき点、参加者に対する要望等)

- ・とてもいいプログラムだった。できれば、離島の学生にも参加して欲しいが、事前研修等の参加が難しいから希望者が少ないのだろうか。
- ・全体的にとってもいいプログラムだった。OAA 青壮年部スタッフが頻りにホストファミリーたちに連絡、共有をしていた。学生たちのチームワーク、柔軟性がよかった。
- ・とてもよかった。カリフォルニア・サイエンス・センター、ラ・ブレア・タールピット等、興味がある場所に連れて行けてよかった。ウェルカムパーティー、さよならパーティー、若者交流会に参加した人が多数いてうれしかった。
- ・とてもいいプログラムだった。学生たちはとても責任感もあり、しっかりしていた。出発前にもうちょっと交流があれば、事前に趣味なども聞けてフリータイムに向けて準備できると思った。ロサンゼルスにはいろんな観光地があるので、受け入れ学生たちの趣味や興味のあるものをわかっていればもっとそれに寄せて外出できた。
- ・沖縄の学生と私の娘たちにとってとてもいいプログラムだった。学生たちは積極的でマナーも良く、明るく、とても楽しめた。スケジュールがハードであった。

Q2. 実施時期は適当でしたか。その理由をお聞かせ下さい。

- ・長すぎず短すぎず、適当だった。
- ・適当だったが、もう少し学生たちとゆっくりする時間が欲しかった。
- ・学生たちが一週間でいろいろな体験できたので適当だった。
- ・もう2日間長ければいいと思った。グループでのアクティビティも良かったが、ホストファミリーとの時間があまりなかった。ロサンゼルスはとても広いのであと2日あれば学生たちにもっと奥深い体験をさせることができた。
- ・適当だったが、ホストファミリーは大変だったのでこれ以上長い期間は良くない。逆に短くなると学生にとって物足りない。
- ・適当ではなかった。理由は、カリフォルニア(南)の学生たちは、既に学校が始まっていたから。

Q3. ホームステイ参加者の資質で大切なことは何ですか。

※5つの選択項目からホストファミリーが多く選んだ項目順に並べました。

1位: 国際交流や外国に対する関心

2位: 積極的な態度

3位: 語学力、沖縄を伝える力、ホームステイへの関心(同ポイント)

その他の意見: 新しい体験や食べ物に対するオープンな姿勢。

Q4. 受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか。

- ・とても礼儀正しく、一緒に過ごす時間が楽しかった。
- ・学生たちは礼儀正しく、積極的に質問をしたり、自分たちの意見をはっきり言えたりしていた。学生を受け入れてよかった。
- ・全員礼儀正しい、良い学生だった。
- ・学生全員がともしっかりしていて、責任感があった。女の子たちが一人きりで危険な目に遭わないように男子学生4人が気を配っていたのは感心した。全員がロサンゼルスで新しい体験をしたいという前向きな姿勢だった。私たちが受け入れた学生はとても良い子たちだった。晩ご飯の準備も手伝ってくれて、いつもフレンドリーで礼儀正しかった。
- ・学生全員がとても良かった。全員が礼儀正しく、明るくて、わがままな態度やコミュニケーションを取りたがらない様子もなかった。Excellent!

Q5. 沖縄からの学生を受け入れたことで、何か変化ありましたか。それはどのような変化ですか。

- ・今後似たようなプログラムがある場合、学生をホームステイとして受け入れる事に対して抵抗がなくなった。今回は受け入れる学生の性別や年齢を細かく指定したが、他の学生に会ったら必要ななかったと感じた。どの学生でも喜んで受け入れていた。
- ・10月上旬に沖縄に行くことになり、既に受け入れた学生たちと連絡を取っている。彼女たちの報告会に参加し、一人には観光に連れて行ってもらうことになっている。
- ・学生たちをロサンゼルス観光に連れて行ってから、家族で改めて面白い街だと気付いた。その後、過去に行ったことのないような場所にも行くようになった。
- ・娘が学生たちに会いに沖縄へ行った。

Q6. 受入期間中に困ったことはありましたか。それはどういうことでしたか。

- ・睡眠時間、リラックスする時間がなかったこと以外困ったことはなかった。毎日が慌ただしかった。学生ともっと家でゆっくりお話して、もっとお互いを知る時間が欲しかった。
- ・いいえ。OAAの事務局がグループ行動、バスの借上げ、コーディネート等がんばっていた。学生たちの安全は確保されており、自由にロサンゼルスを楽しんでいた。

Q7. そのほかにご意見があれば、お聞かせ下さい。

- ・他のホストファミリーからのサポートが大変助かった。
- ・このプログラムの成功で、今後他にホストファミリープログラムがあることを期待する。また、今後現地(ロサンゼルスの)の若者たちが似たようなプログラムで沖縄に行ける事があるとうれしい。
- ・事前に日程表をもらえたことで、自分たちのスケジュールを事前に調整できたので助かった。
- ・実施前に学生との交流がもっとあればよかった。各学生にこの研修を最大限に楽しんで欲しかったが、性格や

趣味等よくわからなかったため似たような場所に連れて行ったりしてしまった。とてもよかったがもっと各学生が興味のあるものに沿っていい体験にしてあげたかった。だが結果的には一緒に過ごした8日間は楽しめて、今彼女たちがここにいないのは寂しく思う。

- ・とてもいいプログラムだったので今後も続いて欲しい。将来的に相互の受け入れとかもあったらいい。
- ・ホストファミリーと学生のマッチングはとてもよかった。
- ・はじめての経験でしたが、家族が増えたようで楽しかった。息子たちともよくなじんでいたのがうれしかった。もう少し時間的に余裕があるとよかったかな？

新聞記事

平成 30 年 8 月 20 日 (月) 琉球新報 19 面



海邦發秀ネットワーク構築事業で米国を訪問している沖縄の高校生と大学生10人を歓迎しようと、北米沖縄県人会(エディ・神谷会長が11日、米カリフォルニア州ガーテナ市の県人会やマウチ・ビルで会を催した。学生らはそれぞれ自己紹介したり写真。訪米の感想を語る際、感動のあまりむせ

アメリカ

訪米10人を 県人会歓迎

高校・大学生事業

び泣き、言葉にならない学生もいたが、全員が米国派遣に感謝していた。8日間の滞在で、生きた英語やパオニア移民の生活を学ぶほか、ホスト・ファミリーとの生活体験をする。

名桜大学1年の新里航平さんは「多くのことを学び、学んだことを沖繩に住む人たちに知ってもらえるように努力したい」と語った。将来は各国の県人会を結ぶ「助け合いの場」づくりに取り組みたいとした。

具志川高校3年の瑞慶山姫菜さんは歓迎会について「ウエルカム(歓迎)ムード一杯で感動した」とし、「琉球芸能、特に胡弓と三線に大きな興味があり、琉球新報のコンクールで新人賞を取りたい」と意気込んだ。

学生らは滞在中、日系博物館や日系企業を見学するほか、県人会のウチナーグチクラスにも参加する。メジャーリーグの試合も観戦する予定。

(当銘貞夫通信員)

琉球新報社 提供

平成 30 年 9 月 3 日 (月) 琉球新報 23 面

次世代に琉球民謡リズム

米の日本人街 二世祭り閉幕



二世週祭のパレードに参加する沖縄北米県人会のメンバーら=8月12日、米カリフォルニアのリトル東京

ロサンゼルス

米カリフォルニア州ロサンゼルスにある日本人街「リトル東京」を中心に約1カ月にわたり開かれてい

た第78回「世週祭(ハコリイ・ハヤシ実行委員長)が8月19日、閉幕した。今年の祭りのテーマは「ジェネレーションズ」。前世代から受け継いだ日本文化と日

系社会の伝統を守り、次の世代へ伝えることが狙いだ。

12日にはパレードが行われ、パレードマーシャル(パレード執行人)やロサンゼルス総領事、パオニア賞受賞者らがオープンカーに乗って登場。日本舞踊なども披露された。今年の二世週祭クイーン(女王)には、オレンジ郡出身のアリス・アマノさんが選ばれ、アマノさんはコート(王女)と一緒に大きな山車に乗って行進し、観客らに愛嬌を振りまいた。

2年ごとにパレードに参加する沖縄県人会の芸能部は、琉球民謡のリズムに合わせて行進した。海邦發秀ネットワーク構築事業で米国を訪問している沖縄の高校生と大学生らもパレードに加わり、学生らは「このような素晴らしい機会に巡り合って幸運」と喜びをかみしめていた。

(当銘貞夫通信員)

琉球新報社 提供

ウチナーグチで 60 人余が交流 「海邦豊秀」学生ら訪問

ロサンゼルス

海邦豊秀ネットワーク橋梁事業に参加している学生



比嘉朝徳さん(前列中央)が主宰するウチナーグチクラスを受講した県の学生と愛媛生ホストファミリーら118名、米カリフォルニア州

10人と引率者2人がこのほど、元北米沖縄県人会会長比嘉朝徳さんが主宰するウチナーグチクラスの授業に参加した。ウチナーグチでの自己紹介の仕方を学び、学生らはユーモアを交えながらウチナーグチで出身校や今回の目的などを紹介した。ホストファミリーも参加し、60人余りが授業に出席した。

ウチナーグチクラスは、ユニークな授業方法を実施していることで知られ、UCLA(カリフォルニア大)に訪れた。

打ちながら、ユンタクヒンタクにふけったり、キーキカットな、楽しいひと時を過ごした。名桜大学でウチナーグチを学ぶ比嘉朝徳さんと新里防正さんは「ロサンゼルスでもウチナーグチクラスが行われている」と感銘を受けたと語った。

ウチナーグチクラスは、専門学校生2人、大学生3人が最終的に選ばれたという。(当館員夫通信員)

学ロサンゼルス校)をはじめ、他大学の言語学者や民俗学者、文化人らも授業に参加している。

学生らを引率する県文化観光スポーツ部交流推進課主事の石橋純紀さんによると、県内の高校と大学から89人が海邦豊秀ネットワーク橋梁事業に応募。面接などを行い、高校生5人、

平成 30 年 9 月 3 日(月) 沖縄タイムス 21 面

10人渡米 再会劇も

高校・大学生 県系人らと交流

米ロサンゼルス

【福田豊子通信】沖縄県民と海外の県系人との強いウチナーグチネットワークを築くことを目的とした県の「海邦豊秀ネットワーク橋梁事業」の一環としてロサンゼルスでの研修プログラムに参加する高校生・大学生の10人が8月11日、現地に到着した。ロス郊外ガーデナ市の北米沖縄県人会では、ホストファミリーをはじめ県人会の面々が歓迎した。

県によると、北米沖縄県人会への派遣は10年ぶり。90人の応募から選ばれた10人の研修生は歓迎会で、英語



2年ぶりの再会を喜ぶ平敷雅さん(左)とエイプリル・ニモさん(右)ガーデナ市の北米沖縄県人会

ワールド通信 ネット

語を交えて自己紹介をし「今後長く続く関係性を築けるようにホストファミリーや県人会の皆さんとコミュニケーションを図りたい」と語った。

平敷雅さんは、2年前のウチナーグチ大会で移民の歴史について一緒に取り組んだエイプリル・ニモさんと再会し「この会場にニモが来るとは知らなかったので再会できてとてもうれしい」と涙ながらあいさつした。

エドワード神谷会長はホストファミリーに向けて「学生たちは米国に暮らす、ありのままのウチナーグチの暮らしを覚えてくる。ホストファミリーの中には日本語を話す人も少なくないだろうが、彼らの英語の勉強のためにできるだけ英語で話し掛けてほしい」と要望。食事でも、ハンバーガーやタコス店など、日常的に訪れる場所に連れて行ってほしいとし「学生たちにとって見るもの、経験するものまでが新鮮に映るに違いない」と呼び掛けた。

県文化観光スポーツ部交流推進課主事の石橋純紀さんは、山城豊子・文化スポーツ統括監のメッセージを代読。また、沖縄から同行した小野英美さんはロサンゼルス出身。交換留学制度で来沖後、沖縄に残り、県の文化観光スポーツ部で通訳と翻訳を務めている。

琉球新報社 提供

従軍の曾祖父の名に涙

沖国大生 日系人博物館を訪問

◎ 米ロサンゼルス

【福田孝子通信員】県の海邦養秀ネットワーク構築事業でこのほどロサンゼルスを訪れた研修生の一人、大城里緒さん(沖縄国際大1年)が、リトルトーキョー地区の全米日系人博物館で曾祖父に関する記録を見つけた。同館には、日本人が米国に移民として渡っ



た初期から戦時中に強制収容された様子など、日本人に関する資料が展示されている。大城さんの母方の曾祖父・故比嘉定吉さんはハワイに移住後、第2次大戦中に欧州戦線に派遣された米軍部隊に所属していた。

同館のデータを調べてもらったところ、すぐに与那原町出身の定吉さんの記録が残っていることが分かった。さら

「ゴーフォー・ブローク・モニユメント」に刻まれた曾祖父の名前を指差す大城里緒さん(ロサンゼルス市リトルトーキョー地区に近隣にある日米兵士の碑「ゴーフォー・ブローク・モニユメント」で定吉さんの名前を確認することができた。「曾祖父が従軍していた」とは聞いていたが、この際に所属していたのか、どういう状況だったのか、詳しいことは全く知らなかった」という大城さん。戦後、ハワイから沖縄に引き揚げた定吉さんに会ったことがあるが、移民や戦争の話はしなかった。実際にモニユメントで名前を自にした時は、感動のあまり涙が止まらなかったという。

沖縄タイムス社 提供

米国でウチナーグチ学ぶ 学生ら北米県人会と交流

◎ 米ロサンゼルス

【福田孝子通信員】米ロサンゼルスでこのほど研修した沖縄県の海邦養秀ネットワーク構築事業の一行10人は、北米沖縄県人会との交流を持った。ゲーアナ市の北米沖縄県人会館でのウチナーグチ講座の体験もその一つ。講座は比嘉朝徳さんの主宰で、月に1回開かれている。この日は、受講者1人と一行のホストファミリーも集まった。



北米沖縄県人会でウチナーグチ講座を体験した沖縄の学生ら＝米ゲーアナ市・北米沖縄県人会館

一行は県人会館でボランティア活動にも参加。会館内の掃除や図書室での書籍整理、データ入力作業に携わり汗を流した。会員に貸し出しもしている図書室には沖縄関連の

訪米した学生のウチナーグチについて比嘉さんは「沖縄では実際に話したことがない子がほとんどだと思っ。沖縄のことを聞かれた時に『分からない』ではなく、身近なことからでも沖縄の歴史や言葉について勉強してほしい。勉強を始めたら、最後まで続けることが重要」と話した。

「大きな書籍が収蔵されている。2005年からボランティアに携わっているモニカ・ソリスさんが、子どもたちの作業の指導に当たった。ランチタイムには、沖縄の学生たちが県人会員に食事を取り分け、同じテーブルで世代や国を超えてコミュニケーションを取った。県人会メンバーは「沖縄の子どもたちとこのような交流ができてうれしい。私たちの米国での経験や生活について積極的に質問し、熱心に耳を傾ける姿勢に感心した」と話した。

沖縄タイムス社 提供

編集後記

沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課 主事 石橋亜紀子

平成 30 年度海邦養秀ネットワーク構築事業は、誰もが一度は行ってみたいと思う憧れの地、アメリカ合衆国カリフォルニア州へ 10 名の学生を派遣しました。現地では、2019 年に設立 110 周年を迎える北米沖縄県人会(OAA)にお世話になりながら、通常の旅行で味わうことのできない経験をさせていただきました。

参加者は事前研修で決めた「家族になる」をモットーに、積極的に県人会の方と交流を深めました。年齢も学校もバラバラな 10 名ですが、共通して「度胸！」「積極性！」「思ったら即行動！」という素質を持っていました。そして、これらの素質が今回のプログラムと見事にマッチしたと思います。メジャーリーグ観戦で元気にカチャーシーを踊り、観客席を盛り上げる場面もあれば、真剣な眼差しで完璧な英語でなくても、堂々と OAA の若者とディスカッションをする場面もありました。引率者にも、彼らの OAA と沖縄の架け橋になろうという強い気持ちが伝わってきました。

当初 OAA の方は、日本人学生が来るということで、恥ずかしがり屋で消極的、自分の意見が言えないというイメージを抱いていたようです。しかし、このような参加者の熱心な姿にとっても感心し、ホームステイ後に「とても素晴らしい企画でした。OAA にとっても良い刺激となり、設立 110 周年に向け機運が高まりました。」と書いていただきました。

しかし、カリフォルニアでのたくさんの思い出は、楽しい事ばかりではなかったようです。若者交流会では、遠く離れたアメリカで、OAA の若者が沖縄を発信しているにもかかわらず、沖縄に住む自分たちは沖縄について何も知らないと思ったようです。海外にいるウチナーンチュに沖縄の伝統・文化の継承を任せてしまっていると感じた学生は、交流会後に「とても恥ずかしく、悔しい思いをした。」と書いていました。

海外から沖縄、そして自分自身を見つめ、足りないものに気付いた参加者は、報告書の活動報告にあるように、様々な活動を実施しています。また、OAA の若者とは定期的に連絡を取り、来沖した際は一緒に遊んでいるようで、再会したときには私たちにも報告の連絡があります。現地で感じたウチナーネットワークへの思いを一過性にしないために、小さくても自分ができることから取り組む参加者の姿には、沖縄の明るい未来が期待できると思います。

プログラムを通し、参加者が次世代の沖縄を担う人材として大きく成長することができたのも、多くの方々のご協力・ご尽力あってこそでした。神谷エドワード会長を始めとする北米沖縄県人会会員の皆様には、参加者にとって第二の故郷を作ってくださいました。そして、保護者や担任の先生の皆様には、現地で参加者が更新していた海邦養秀ネットワーク構築事業 Facebook の記事に常に「いいね！」を押してくださることで、遠い沖縄から温かい声援を感じることができました。本当にありがとうございました。

参加者のみなさん。事前研修で約束したとおり、メンバーそして県人会の皆様と「本物の家族」になることができましたね。次の目標は「継続」です。これからも今回築いたウチナーネットワークが継承されるよう、様々な分野でのみなさんの活躍を期待しています。

沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課 囑託員 小野英美

アメリカで育ち、長年北米沖縄県人会で活動していた身として、私の大好きな故郷のカリフォルニアで参加者たちが成長していく姿を見られたのはとても感動しました。中には応募する前までは沖縄の移民史や県人会について知らない参加者もいましたが、研修中は全員熱心に学び、研修後の報告会では自分から世界のウチナーンチュについて発信していく前向きな姿勢に感心しました。

事前学習の英語講座担当としてあえて「英語力」よりも「知っている英語を恐れず使う事」に焦点を当てていましたが、やはり出発前に不安なところがありました。ですが全員が初日のウェルカムパーティーから積極的にコミュニケーションを取っている姿を見て、彼らは問題なく一週間を過ごせると感じました。

カリフォルニアのウチナーンチュの特徴といえるのは、様々なバックグラウンドだと思います。もともとは沖縄からハワイへ移民した方とその子弟、アメリカ人との結婚を機に移住してきた方、仕事や勉強のために渡米した方、また、沖縄にルーツはないけど「心はウチナーンチュ」の方。いろいろな形でウチナーネットワークの一員である方たちの沖縄への想いを直接聞くことができたのは学生たちの大切な財産になると思います。

また、参加者とともに北米沖縄県人会と再度交流する事で改めて私自身の海外のウチナーンチュとしての想いを見つめ直す機会となりました。現在は沖縄に“里帰り”している私ですが、沖縄でもカリフォルニアでも「帰る場所」があると感じるのは県人会のコミュニティで育まれた沖縄への尊敬と誇りのおかげです。

参加者たちが帰国後もカリフォルニアで出会った人たちやお世話になった家族と連絡を取り続ける事でまた少しウチナーネットワークが広がり、今後世界と沖縄を繋げる架け橋として活躍する人材になることを願います。

最後に、アメリカのウチナーンチュに興味を持ってくれた参加者、支えてくれた保護者の皆様、そして沖縄のうといむちの心で受け入れて下さった北米沖縄県人会の皆様には感謝します。

Thank you everyone for welcoming all of us “home”!

世界で活躍するウチナーンチュ。これからの沖縄を担っていく沖縄に住むウチナーンチュ。

本事業を通して参加者が自発的に考え行動し、世界にいるウチナーンチュとの繋がりを深め、ネットワーク構築を広げるきっかけになるよう事業運営を目指しプログラムがスタートしました。大学生3名、専門学生2名、高校生5名、合計10名の参加者は、これまでに様々な交流プログラムへ率先して参加している学生や、沖縄文化歴史を学んでいる学生、この事業を機に学び始める学生など、各々10名が本事業へ意欲や目的、夢を持って参加をしてくれました。

事前研修を通して初めの頃は少し緊張しながらも、徐々に打ち解けあい、家族のように仲良くなることのできるコミュニケーション力。また、深く学ぶことが初めてであろう移民の歴史や文化、背景について積極的に質問や発言をし、学びを吸収する態度や姿勢。参加者達の一人ひとりの行動がやる気・意欲に満ち溢れており、本事業を通して更なる学びや繋がりを得るであろうと確信しました。

本研修では北米沖縄県人会の皆様が、一から受け入れ日程の調整をさせていただき、ロサンゼルス到着から帰国までの間、ウチナーンチュの心を感じさせるおもてなしでとても暖かく迎え入れて頂き、大変貴重な経験をさせて頂きました。特に「二世ウィークパレード」への参加は参加者たちにとって一生に一度の経験となり、沖縄の誇りを改めて感じる機会となりました。また、現地若者との交流会では、沖縄への思いを共有し、言葉はうまく伝わらなくとも、心で繋がることのできる友情が生まれたと感じております。

派遣中最後のプログラムである「Farewell Party」での学生参加者一人ひとりの挨拶では、ほとんどの参加者が感極まり、涙を流す場面が見受けられ、参加者達にとっていかに研修が充実したものだったのか、絆を深めることが出来たかを感じさせられ、私自身もとても目頭が熱くなりました。また、その後にこちらからの出し物「国道508号線」「カチャーシー」では北米沖縄県人会の皆様も参加していただき、全体の心が一体となった場になりました。

参加者達は帰国してからも、カリフォルニアで繋がったウチナーンチュとコンタクトを取り続けたり、自ら沖縄を発信できるように伝統芸能・伝統文化を学び始めたりと各々が思いや成果を持ち帰り、ウチナーネットワークを広げております。今後も参加者たちが得た繋がりがより大きく、より深く、より広くなることを祈っております。

最後になりましたが、今回本事業への参加者を受け入れて下さった北米沖縄県人会の皆様、ホストファミリーの皆様、事前研修、事後研修でお世話になった講師の皆様、OBOGの皆様、参加者の皆様、参加者を支えて頂いたご父母の皆様及び本事業で出逢ったすべての方々へ感謝申し上げます。

NPO法人 沖縄NGOセンター 眞壁由香/永田有希

今回事前研修で心がけたことは、参加者が主体的に研修に取り組む姿勢を作ることでした。派遣先でも参加者同士で協力し、個人的には積極的に活動出来るように、ということを中心に事前研修の内容を考えました。

今年のメンバーは一人一人が自分の個性を十分に理解しており、研修初日からそのユニークな個性のおかげでまわりの大人をドキドキさせてくれました。チームビルディング、チームミーティング、移民学習、沖縄の歴史と移民、英語学習などを通して、参加者の距離がだんだん近くなり、自分たちで決めたルールや「家族のようなチームになりたい」という思いが、カリフォルニアへ出発する前には一つになれたように思います。

そして、それは派遣先のカリフォルニアでさらに強い絆となり、帰国後は本当の家族のようになっていました。帰国後の彼らと再会した時には大きく成長した姿を見せてくれて、この研修に関わられたことを改めて嬉しく思いました。

この研修には北米沖縄県人会の皆さまをはじめ、事前研修の講師の方、OB・OGの皆さん、県内在住の日系の方々、そして元ウチナンチュ子弟等留学生(県費留学生)などたくさんの方々に関わってくれました。そして保護者の皆さまのご協力もありました。本当に有り難うございました。そのたくさんの方々に関わってくれた事へ感謝の気持ちを忘れずに 参加者同士、そして派遣先で出会った人たちとの繋がりを、この先ずっと大切にして欲しいです。そして更なるネットワークを築いていてもらいたいです。選ばれし10名の学生の皆さん、今後の活躍を期待しています。もちろん、これからも変わらず応援し続けます！ちばりよ～！！

平成 30 年度海邦養秀ネットワーク構築事業

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会

(沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課)

発行年月 : 2019 年 1 月

受託者

株式会社国際旅行社・特定非営利活動法人沖縄NGOセンター 共同企業体